

会 議 要 旨

会 議 名	令和7年度第1回 館山市地域公共交通会議 運賃協議分科会
開 催 日	令和8年2月26日(木) 午前10時00分～午前11時15分
開 催 場 所	菜の花ホール1階 第1集会室
出 席 者	[委 員]合計13名 ※委員名簿のとおり [館山市]合計4名 (総合政策部長・企画課長・公共交通係長・係員)
公開・非公開の別	非公開
傍 聴 人 数	0名
議 事	【議 事】 (1) 市街地循環バスの運賃改定について 【その他】 ・事務局、出席委員からの情報提供等
会 議 内 容	◇開会 ◇議事 (1) 市街地循環バスの運賃改定について ・事務局より「資料1-1～1-3」について説明し、運賃改定案について、事務局案のとおり承認された。 【質疑・意見等】 (眞汐眞一委員) ・前回会議にて、市の持ち出し費用がいくらかかるかという議論が途中で終わってしまっていた。物価高が影響しているが、物価高は高所得層から低所得層まで平均して影響を受ける。低所得者の負担が重くなっているのが事実。年金に関しては、物価上昇率に合わせて支給額の見直しが行われる仕組みになっているが、大きくアップは予定されていない。利用する客層は高齢者が多いと思っている。バス運賃25%アップに対し、年金はそこまで上がらない。できれば、高齢者の負担になるような改定は見送って頂きたい。資料1-2内8-2の意見で運賃改定の見直しが不十分という意見があり、市の経費としては35万1千円の削減となっているが、これは試算したのか。 (事務局) ・収入としては約35万円増えるが、一方で運行経費も2割、約400万円増加しており、市の支出としては約360万円増える見込み。

(眞汐眞一委員)

- ・市負担削減をしなければならないのは重々承知している。持続可能な運営を目指すというのが一番のテーマだと思うが、利用する人がいて初めて公共交通として成り立つ。であれば、利用する人が利用しやすい運賃体系が良いのでは。利用する高齢者の中で、免許返納者や年金暮らしの人が多くことが予測されるため、新たな負担を強いるのがどうかと思っている。大きな金額でなければ、運賃は押さえて、高齢者の引きこもりをなくし、社会と接する機会を増やして欲しい。高齢者が気軽に使用できるような運賃設定が良いと思う。

(事務局)

- ・地域公共交通については、近年走っているのが当たり前ではなくなっている。10年前に比べて公共交通分野における市の負担は7倍になっている。市内の路線バスは全て赤字で、税金で負担している。持続可能な公共交通の維持は、交通事業者の努力だけでは困難であり、行政が全額負担するというのも不可能。地域の皆様にもご協力いただき、3者で公共交通を維持していくことが求められている。その為には、公共交通の啓発も市で行わなければならない、イオンでイベントを開催するなど、利用促進を図っている。ご説明のとおり、運行経費の増加21%分だけは、受益者に負担していただくという内容になっているので、御理解いただきたい。

(眞汐眞一委員)

- ・説明は良く分かる。これは都市部を除いた市町村の宿命で、公共交通を維持しようとする、赤字路線の維持となる。運行経費増分の運賃を上げたいという理屈はわかる。値上げをせずに乗客を増やすことに関して、市としてはどう考えているか。これから団塊世代が増えてきて、公共交通を利用せざるを得ない状況になってくる。右肩上がりで増えてくるため、同じ値段で今は抑えて、利用者が増えてくる傾向を確認してから値上げを検討してもよいのでは。早急にやる必要があるのか。

(事務局)

- ・来年4月から、一部渚の駅を通る便を運行するほか、便数は変わらないが、要望の多かった逆回りのルートも6便中、2便運行させ、ダイヤも遅い時間の運行を一部予定している。広報等での周知活動も継続しており、ノーカーサポート割等は維持していくことを考えている。

(眞汐眞一委員)

- ・免許返納による割引期間はどれくらいあるのか。

(事務局)

- ・2年間有効となり、更新も可能。

(眞汐眞一委員)

- ・2年で終わってしまうと思っていた。実際市の負担となるのはどれくらいなのか。

(事務局)

- ・8年度の試算だが、運賃が現状のままであれば、運賃収入は190万円程度、国庫補助金は300万円程度。2,400万円の運行経費から収入を引くと、約1,900万円が市の負担となる。

(眞汐眞一委員)

- ・運賃改定する事で、市の持ち出しが劇的に変わるのであれば、やむを得ないかと思うが、せいぜい数十万円の範囲で考えているのであれば、運賃は現状維持のほうが良いと思う。その辺の試算をしてみたいか。

(事務局)

- ・令和7年から8年にかけて、運行経費が400万円増える予定。

(松坂誠一委員)

- ・循環バスのルートや時刻表はどこで確認できるか。

(事務局)

- ・駅乗り場や市役所でチラシを配布している。その他変更があれば、広報紙やホームページで周知している。

(松坂誠一委員)

- ・循環バスは、北条地区周辺住民が利用出来、便利だと思うが、それ以外の地域の人ほどどのように接続出来るかなどをあまり知らず、利用を広めていくのは大変だと思う。北条地区以外の人にどれだけ利点があるのだろうか。北条地区以外の人で循環バスを使おうという人は非常に少ないのではないか。私も利用したことがない。館山駅から離れた所から上手く接続すればいいが、利用者を増やすためにも日東やJRと接続させればいいと思う。例えば、スクールバスの経費を一部流用してはどうか。受益者負担だけは大変。値段を上げたときの利点が無いように感じる。市全体を考えて利用方法を再検討してはどうか。

(三井原久美委員)

- ・スクールバスについて小学校の再編協議の際に、スクールバス運行の代わりに、路線バスに通学補助を出せないかと意見を伝えた事がある。教育委員会の立場として、保護者との約束事があるから不可能だと言われた。今回の運賃改定案を見ても、未来が見えない。値上げが一回で終わるとは思えない。今回どうしても値上げをしないといけない理由には、二つの理由が混在していると思う。一つは、運行経費が物価高騰により上がり、実質的な値上げをしなければいけないこと。もう一つは、先を見越して、将来減便にならないよう今のうちに値上げをしようというもの。二つが混ざっているように感じる。受益者負担のみにウェイトをかけずに、福祉的な観点や、免許返納につながるような公共交通の役割に期待したい。今回、ここだけは値上げしないといけないというのはやむなしとして、利用者数が増えなかった場合、将来的にこれくらい値上げをしますというのを提示していき、市民全体で考えていかないといけない。普段社会福祉協議会にも協力しており、毎年高齢者にある程度の予算をかけてお菓子を配ったりしているが、公共交通チケットなどを配布し、公共交通を体験してもらうことも一つだと思う。値上げに関しては、しないに越したことはないが、実質分の値上げになったら良いかと思う。またキャッシュレス決済割はあった方が良い。

(田村正榮委員)

- ・キャッシュレス決済は必要だと思う。高齢になると動作が緩慢になり、乗降にかなりの時間を要する。キャッシュレス決済であれば効率的になる。出来れば値上げはしないで欲しいが、市の財政はそれほど逼迫しているのか。そうでなければ、上げないで欲しい。出来ればワンコイン(100円)が良い。

(事務局)

- ・運賃250円で提案しているが、継続するためには、最低でも経費が上がった分は値上げさせていただきたい。例えば240円ではいかがか。また、パスに関しては、4,000円ではなく、3,000円にし、利用頻度が多い方の、負担を減らすのはいかがか。キャッシュレス決済割に関しては、他の路線で行っていないこと、またイベント等でICの啓発を図っているため、廃止したいと考える。その他、障害者、ノーカーサポート等が半額になるのは継続していきたい。

(石川基博委員)

- ・委員になったことで、一度かいまーるに乗車してみた。必要な路線だと思う。障害者、高齢者の方が乗っていた。会議の中で色々な議論がなされているが、市の一般財源で2,400万円を負担している。すごい金額だと思う。この金額を市が負担し、収入が170万円くらい。国庫補助金ももっとあるかと思っていたが、290万円。市の負担がすごく重い。この負担を市民全員に負担させるのか、一部の受益者のために使うのか。そのバランスが果たして正しいのかと感じた。収入に対しての経費がおかしいのではないかと思う。だからといってなくそうとは思わないが、市の思いを理解し、事業を継続するため、これだけ経費が増えると分かっているにも関わらず、経費を吸収せず一般財源から出せというのは、提案を理解している意見とは思えない。そういった意味では、市の提案の意味を理解し、皆で受け入れるべきだと思う。

(篠塚和則委員)

- ・石川委員の意見に同感。実際にかいまーるに乗車してみた。パスはどういった内容か。

(事務局)

- ・購入から1か月間乗り放題になる紙媒体。

(篠塚和則委員)

- ・紙媒体の経費を削減するなどすれば、パスを安くすることも出来るのではないかと思った。九重地区にはチョイソコが通っているため、かいまーるに接続させ、利用促進を図るのもありかと考える。

(眞汐眞一委員)

- ・冒頭にも言ったが、物価が高騰しているなか、年金の上昇率はそれほどでもない。高齢者が増えてくる中で、循環バスの事業自体が、福祉として行っているのか、事業として行っているのか、福祉がウェイトを占めていると思う。高齢者が増え福祉の金額が上がっていくのはやむを得ないと思う。250円に上げる考えの基礎が、経費が上がったからだけでは甘いのではないか。福祉事業のかいまーるに関する予算は圧縮せず、他で稼ぐ方法を考えてはいかがか。市の5ヶ年計画で、皆が主役というテーマがあったと思うが、高齢者が年をとっても安心して楽しい館山と思ってもらう為にも、運賃改定は控えていただきたい。

(高橋晴樹委員)

- ・事務局より 250 円を 240 円にという案もあったが、かいまーるに関しては、運行経費を抑えるため安価な運賃箱を使っており、240 円になった場合、釣銭補充等も必要になるほか、乗降時に時間がかかり、定時制が確保されなくなることにつながり、利用者減につながる。運賃に関しては、100 円ないし、50 円単位で行った方が、運用面では効率的。路線バスでも運賃改定を予定しており、現行運賃のままだった場合 10 円しか差がなく、利用者減になった場合、赤字の増につながり、市町村の補助金負担額の増につながってしまう。

(清水博志委員)

- ・運賃値上げはやむを得ないと思う。

(石井会長)

- ・様々なご意見をいただいたが、会としての意見をまとめなければならない。意見が分かれているため、表決とさせていただきたい。案としては 3 パターン。現状維持または、事務局提案通りの値上げ、途中で事務局より再度提案のあった、値上げ額を若干考慮した値上げ。各委員の意見を確認させていただく。

表決結果

現状維持： 3 名

事務局提案通り： 8 名

若干考慮した値上げ： 1 名

(石井会長)

- ・会の意見としては、事務局提案通りの値上げと決定する。

～異議なし～

◇その他

【事務局から】

- ・会議要旨についてはまとめ次第送付するので、内容確認をお願いしたい。

◇閉会